



今年もあとひとつきとなりました。11月は期末テストもあり、みなさんお疲れさまでした。元気に年越しできるよう、適度に休養をとりながら過ごしましょう。そして、休養のおともに、自分の心もリラックスできる本はいかがでしょうか。

冬休みの長期貸出に向けて、読みものを中心に新着図書がたくさん入りました。2学期までに図書館に入ってきた本は、508冊です。教室掲示してある新着図書案内や図書館前の掲示をみて、気になる本を借りてみましょう。

2022年 二中貸出ベスト5!!

1位 朝霧カフカ『文豪ストレイドッグス STORM BRINGER』ラノベの棚 913 ア

2位 藤田圭『意味が分かつと怖い話』ショートショート棚 913 フ

3位 辻村深月『かがみの孤城』913 ツ

三月みどり『グッバイ宣言』ラノベの棚 913 ミ

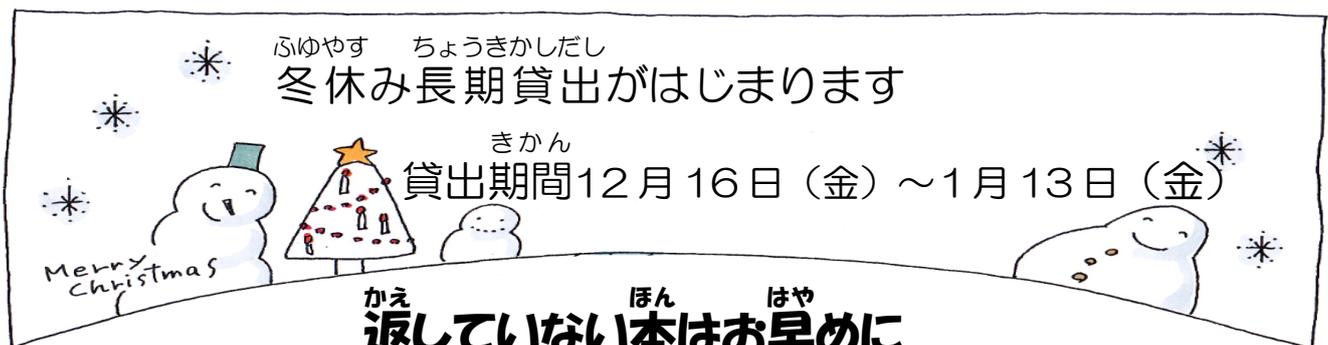
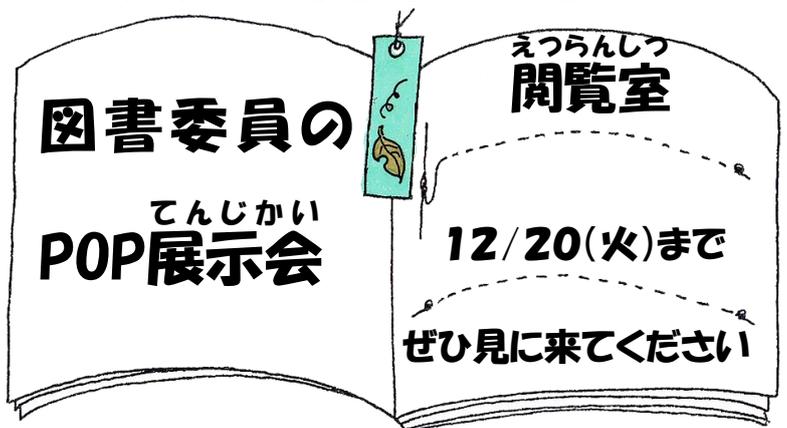
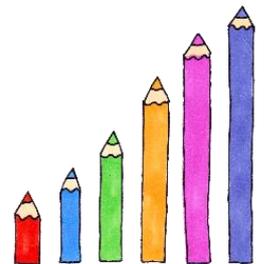
藤田圭『意味が分かつと震える話』ショートショート棚 913 フ

朝霧カフカ『文豪ストレイドッグス-太宰治の入社試験-』ラノベの棚 913 ア

4位 逢坂冬馬『同志少女よ、敵を撃て』
913 ア

朝霧カフカ『文豪ストレイドッグス
BEAST』
ラノベの棚 913 ア

5位 昆布山葵『同じクラスに何人かの
主人公がいる』
913 コ



冬休みもひとり10冊までの長期貸出を行います。貸出期限を過ぎている本がある人は借りることができません。借りっぱなしになっている本がある人は、今年のうちに返してすっきり年越しをしましょう。



12月3日（土）～9日（金）は障がい者週間です。

障がいの有無にかかわらず、だれもが人格と個性を尊重し、
支え合う社会の実現について、考えてみましょう。



『目の見えない白鳥さんと
アートを見に行く』

川内有緒／集英社／2021年

〔内容〕 「白鳥さんと作品を見るとほんとに楽しいよ！」

という友人マイティの一言で、「全盲の美術鑑賞者」と
アートを巡るというユニークな旅が始まった。

白鳥さんや友人たちと絵画や仏像、現代美術を前に会話を
していると、新しい世界の扉がどんどん開き、それ
まで見えていなかったことが見えてきた。

見えない人と一緒にアートを見る旅は、私たちをどこに
連れていってくれるのか。

— 2022年ノンフィクション本大賞受賞作 —

〔感想〕 著者が白鳥さんと見た美術作品も掲載されており、本文
を読みながら自分ならこの作品を白鳥さんにどう伝える
かを考える…不思議な読後感です。言葉とは使っている
ようで使いきれていないこと、同じものを見ても見る人
によって感じ方が違うこと、あたりまえの無力さを
再認識できます。



『夜明けのすべて』

瀬尾まいこ／水鈴社／2020年
913セ

〔内容〕 職場の人たちの理解に助けられながらも、月に一度の
PMS（月経前症候群）でイライラが抑えられない美紗
は、やる気がないように見える転職してきたばかりの
山添君にイライラをぶつけてしまう。その山添は、数年
前急にパニック障害になり、生きがいも気力も失っ
ていた。

互いに友情も恋も感じていないけれど、おせっかいな
者同士の二人は、自分の病気は治せなくても、相手を助
けることはできるのではないかと思うようになる—。

〔感想〕 他者の病気について考え、行動することで、予想以上の
パワーを発揮する美紗と山添の姿は、人との繋がりの
あたたかさを教えてくれます。障がいも病気も個性も人
それぞれ。この二人のように周りの人を思いやれるよう
になりたいと思いました。